

少子化時代の習いごと事情

イー・ウーマン調査「少子化時代の子どもの習いごと事情」
<http://www.ewoman.co.jp/>

5月20日付けの日経MJに英語で子育てをする母親が増加している、という記事が載っていた。幼児向けの英語教材が次々と発売されたり、小学校の総合教育で英語学習が取り上げられるなど、子供の英語教育への関心が高まっている。このような環境の中でイー・ウーマンに集まる母親たちは、子供達にどんな習い事をさせているのだろうか。今回は「子供の習い事・お稽古事」についての調査を行ってみた。

ワーキングウーマンの多いイー・ウーマン。もちろん母親になっても働いている人が多く、フルタイム41%、パートタイム26%と、実に2/3の母親が仕事を持っている(グラフ1)。自分自身が忙しい人が多いため、子供につきっきりで習い事をさせているわけではないと考えられるが、0-3歳でも3割、4-6歳では6割強、小・中学生ともなると9割以上が何らかの習い事(学習塾含む)をしている(グラフ2)。

では、実際にどのような習い事をしているかという(グラフ3)、就学前の乳幼児では英語・英会話がトップ(0-3歳:12.8%、4-6歳:31.7%)。4-6歳では英語に加え、スイミングや体操などのスポーツやピアノを始めとする音楽を習っている子供も1/4に上る。小学校低学年になるとスイミング、野球やサッカーなどのスポーツが6割と急増し、音楽も3割強の子供が習っている。それと同時に学習塾や通信教育など、学校以外の勉強をしている子も3割を超える。これが小学校高学年となってくると、半数が塾や通信教育を行い、その代わりに少しずつスポーツや音楽を習う割合が減少してきていた。尚、小学生のその他の習い事は習字や絵画、ボーイスカウトなど。習字を習っている子供は1割強程度であるが、日本の伝統はまだ受け継がれているようである。

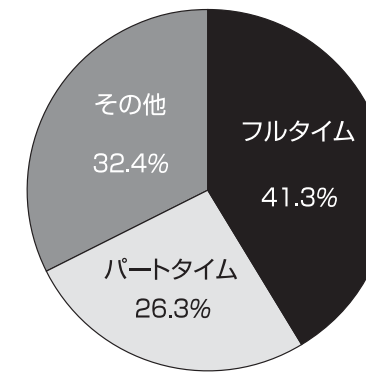
中学生となると部活が活発になるためか、学校外でスポーツ活動を行う子供は2割に減少する。塾に通う中学生は半数を越え、学年別で見ると1年生で塾に通っている子供は少ないが、2年生になると6割が塾に通い始める。どうやらのんびりできるのは中学1年生まで、という様子だ。高校生ともなると塾も含めて全般的に習い事をする割合は低下していた。わざわざ習わなくても既に技術は習得している場合もあるし、学校のクラブ活動や自分の趣味や遊びで、毎日が忙しくなるためであろう。

小学生から高校生まで、英語・英会話を習っている割合は一貫して2割前後と相対的に高い割合をキープしている。就学前の幼児では3割が英語を習っているが、それはヒアリングや発音などになるべく小さいときから慣れさせたいという親の考えの現れであろう。

これから子供に習わせたいと思う習い事では、ピアノ、スイミングや英語といった定番に加え、ダンス、演劇、そして国際化の時代だからこそ日本の伝統的技術やたしなみを身につけてもらうために華道・茶道や少々変わったところで和太鼓を習わせたいと考える母親が見られた。また、様々な少年犯罪が横行し始めていることも影響してか、心身を鍛えるための空手や合気道などの武道、ひいては護身術まで、親としてできる精一杯の機会を子供たちに与えたい、と模索している様子がうかがえた。

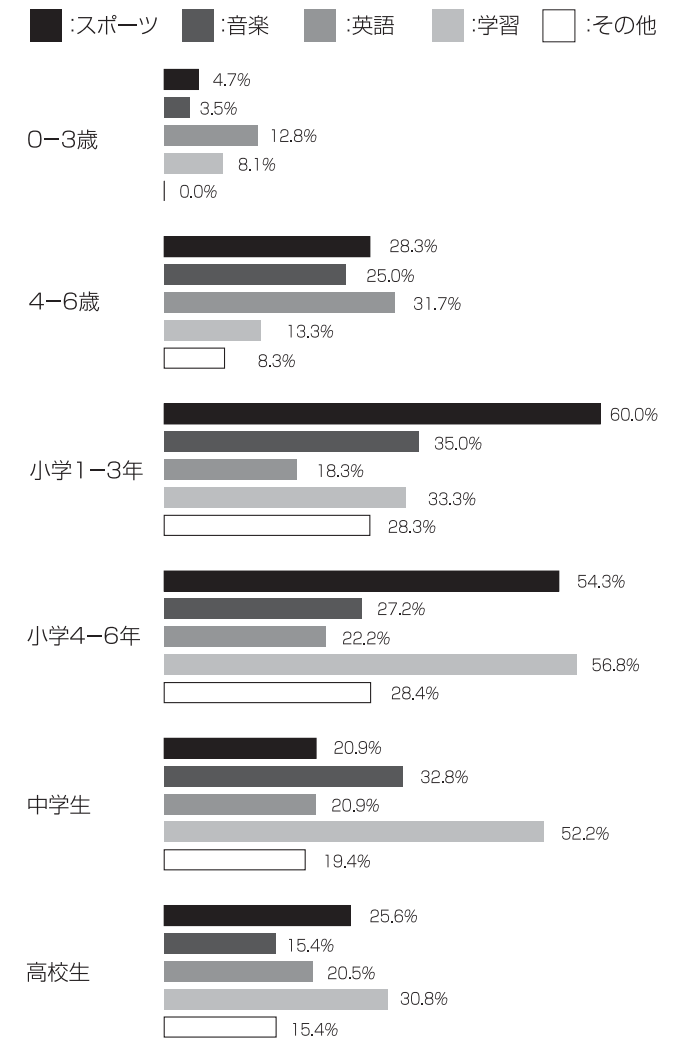
● 子供のいる母親のワークスタイル <グラフ1>

(イー・ウーマンリーダーズ登録データより)



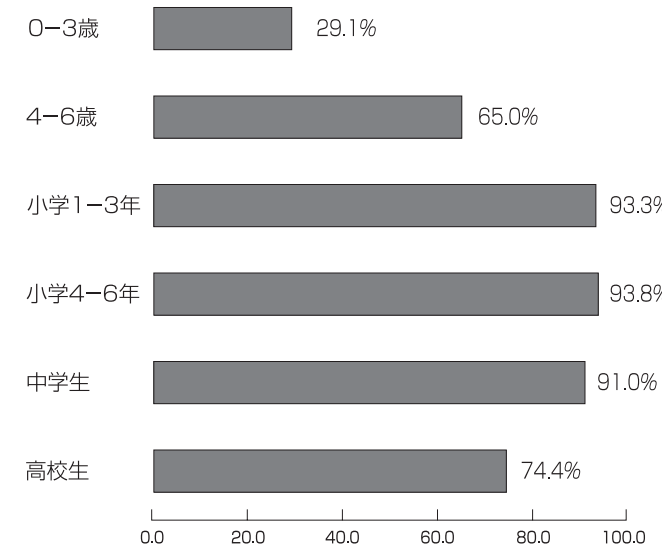
● 子供がしている習いごと・お稽古ごと <グラフ3>

(イー・ウーマンリーダーズの0歳~高校3年生までの子供 393名)



● 年齢別習い事(学習塾含む)をしている割合 <グラフ2>

(イー・ウーマンリーダーズの0歳~高校3年生までの子供 393名)



<調査概要>

調査実施:2003年5月23日~27日
 調査方法:インターネットによる自記入式アンケート
 対象:イー・ウーマンリーダーズの女性
 有効回答者数:181名、子供の総数:393名

LEADERS DATA

